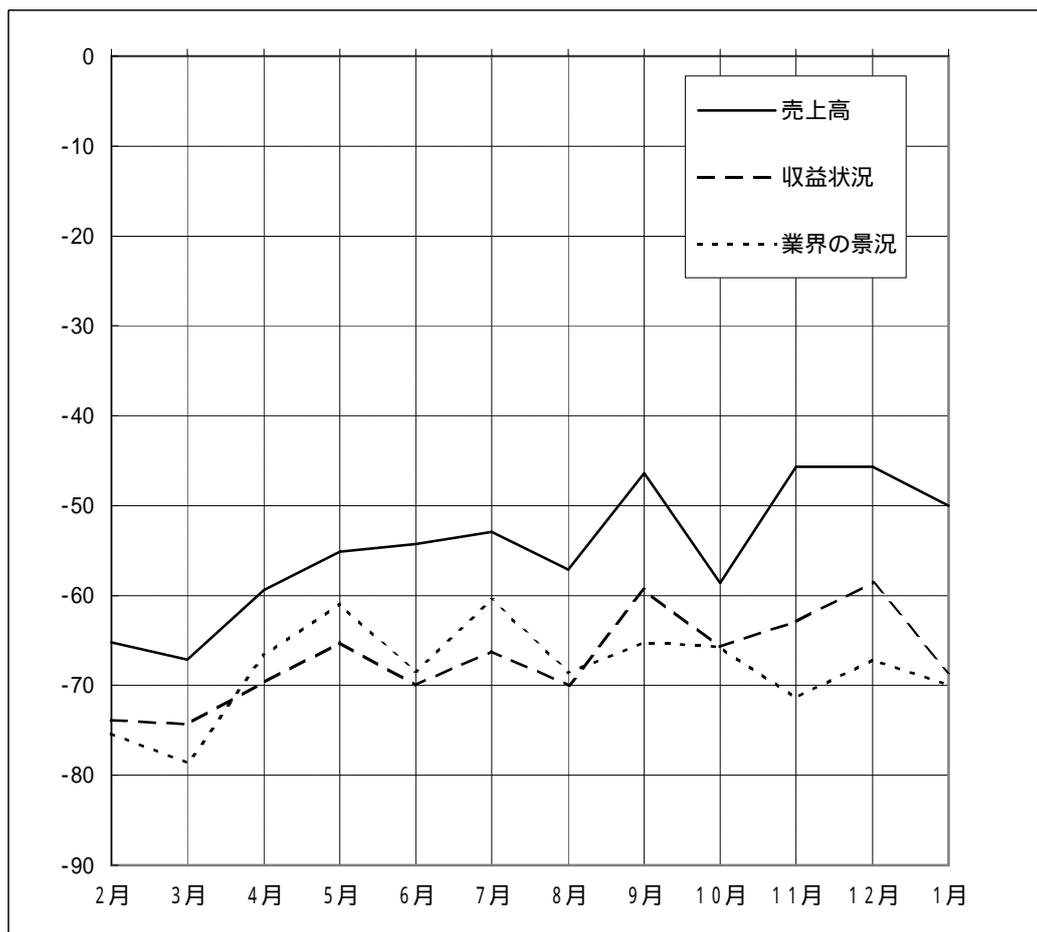


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成14年2月～平成15年1月

単位:ポイント



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
売上高	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0
収益状況	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6
業界の景況	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0

1月のDI値をみると、3項目全てが前月より悪化し、相変わらず一進一退の様相。「景況」は前月より2.9ポイントの悪化で、12月の改善を持続できず11月の水準の-70%台に戻った。「売上高」は4.3ポイントの悪化で10月以来3ヶ月振りに-50%台に、「収益状況」においては10ポイントと大幅に悪化し、8月の水準の-70%台に近づくなど、中小企業の業況は、一進一退の様相の中、依然として厳しい環境下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、「食料品」で好転とした数が増えたことで、全体的な景況感の底上げとなったが、相変わらず「鉄鋼・金属」「繊維・銅製品」「木材・木製品」で悪化とする割合が高く、また、非製造業では、前月好転とした「商店街」では全て悪化となるなど、総体的には製造業より景況感が悪く、相変わらず「商店街」の他「卸売業」「建設業」「鉱業」で悪化とする割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「窯業・土石製品」「鉄鋼・金属」の一部で好転している報告もあるが、相変わらず製造業全体では受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他、需要の減退や不況感の影響を引きずっている報告がある。また、「商店街」「卸売業」を含めた非製造業では、販売単価の低下や個人消費の低迷による売上げの減少等の他、取引先の倒産や組合員の廃業による景気回復の足取りが見えない中での不況・不安感の報告が見られるなど、厳しい状況下にあることが窺える。